

授業科目名	人間の構造と機能 看護形態機能学	分野・科目	専門基礎分野・人間の構造と機能
単位数	1	開講学年	●●●
担当教員	●●●	授業形態	講義 (1 単位=14 回、28 時間想定)

科目の概要

- ・ 科目「解剖生理学」で学習した内容を日常生活行動の視点から人のからだの構造と機能を思考してみる。
- ・ 従って、科目「解剖生理学」で使用した教科書、ノートを持参し、教科書「形態機能学」と併用しながら授業を進める。
- ・ 授業の方法は、主として板書を用いた教授方法であるが、より理解を深めるために随時、ケーススタディや実地体験演習も取り入れる。
- ・ また、Team Based Learning のアクティブラーニングの手法を用いてチームで学習を進める。

授業の到達目標

形態機能学は、履修済みである科目「解剖生理学」の知識を活用しながら、改めて人のからだの構造と機能を日常生活行動の視点から理解し、看護ケアに繋げる思考プロセスを習得する。

従って、以下の視点から人のからだを理解することを目標とする。

1. 人間はどのようなからだのしくみで日常生活行動を営んでいるのかを学び、理解する。
2. 日常生活行動を営むからだのしくみが障害されたとき、どのような看護ケアに繋げることが出来るかを思考することが出来る。
- 3.

	授業内容	授業計画	教科書の該当章・節
1	イントロダクション 内部環境の恒常性	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イントロダクション： 形態機能学とは？「日常生活行動とからだ」と看護について、チームで学習する重要性について ・ からだの内部を一定に保つこと：内部環境の恒常性 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習：科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る（振り返る箇所は、右記参照） ・ 復習：授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>第2章 V 器官系の概略 第3章 体液と血液 I. 体液</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第2章 II-A からだの内部を一定に保つこと：内部環境の恒常性</p>
2	恒常性維持のための流通機構	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひとにとっての流通機構とは ・ 流通機構の原動力である心臓と流通路である血管、リンパ管 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習：科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る（振り返る箇所は、右記参照） ・ 授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>第3章 体液と血液：II. 血液 第4章 血液循環のしくみ 第12章 恒常性維持のしくみ：I～III</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第2章 II-B 恒常性維持のための流通機構</p>
3	恒常性維持のための調節機構	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 恒常性を維持するための液性調節（ホルモン） ・ 恒常性を維持するための神経性調節（末梢神経、中枢神経、自律神経） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予習：科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る（振り返る箇所は、右記参照） ・ 復習：授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>第10章 情報伝達と処理のしくみ 第11章 内部環境維持・調節の仕組み</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第2章 II-C 恒常性維持のための流通機構</p>

4	<p>チームで学ぶケーススタディ①</p> <p>内部環境の恒常性 恒常性維持のための流通機構 恒常性維持のための調節機構</p>	<p>【TBL】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な患者の例を挙げてチームで話し合い、学びを深める。 ・恒常性の維持のからだの仕組みと調節機構の仕組みを考える（題材例：脱水のケース、初めての入院でストレスがある女性患者）。 ・上記の内容から看護ケアを考えてみる。 <p>【課題】</p> <p>第1～3回までの講義内容を自分ノートを用いて復習してくる</p>	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第1～3回までの講義内容を復習してくる。</p>
5	<p>目覚める・思考する 動く・活動する 休息する・眠る</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとにとって「目覚める・思考する」とは、その形態と機能 ・「動く・活動する」「休息する・眠る」ときの形態と機能 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る（振り返る箇所は、右記参照） ・復習：授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>第10章 情報伝達と処理のしくみ：Ⅲ中枢神経系、Ⅴ運動系の伝導路</p> <p>第8章 からだの支持・運動のしくみ</p> <p>第12章 恒常性維持のしくみ：Ⅵからだのリズム生変化と睡眠</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第2章 IV-A 目覚める・思考する、B 動く・活動する、H 休息する・眠る</p>
6	<p>息をする</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとにとって「息をする」とは、その重要性和形態と機能 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る（振り返る箇所は、右記参照） ・復習：授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>第5章 呼吸のしくみ</p> <p>第8章 IV 各部の骨格と筋の構造と機能</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第2章 IV-C 息をする</p>
7	<p>食べる</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとにとって「食べる」意味とは、その形態と機能 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る（振り返る箇所は、右記参照） ・復習：授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>第7章 消化・吸収・代謝のしくみ</p> <p>第8章 IV 各部の骨格と筋の構造と機能</p> <p>第9章 V 味覚器・嗅覚器</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第2章 IV-D 食べる</p>
8	<p>トイレに行く 排尿する 排便する</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排尿をすること、排便をすることの意味と重要性、その形態と機能 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る（振り返る箇所は、右記参照） ・復習：授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>第6章 排尿、体液調節のしくみ</p> <p>第7章 V-F 排便</p> <p>第8章 IV 各部の骨格と筋の構造と機能</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第2章 IV-E トイレに行く（排尿する）、F トイレに行く（排便する）</p>
9	<p>チームで学ぶケーススタディ②</p> <p>食べる</p>	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な患者の例を挙げてチームで話し合い、学 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>【形態機能学の図書】</p>

	トイレに行く (排尿する、排便する)	<p>びを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べる、トイレに行くの形態と機能を考える(題材例:経管栄養の患者、ベッド上安静を強いられている患者のケース)。 ・上記の内容から看護ケアを考えてみる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習:科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る(振り返る箇所は、右記参照) ・復習:授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	第7~9回までの講義内容を復習してくる。
10	お風呂に入る・身だしなみを整える コミュニケーションをとる 性を営む	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂に入る、身だしなみを整えることは人にとってどのような意味があるのか、その形態と機能 ・コミュニケーションをとることの意味、その形態と機能 ・性を営む:男性と女性の性について、その形態と機能 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習:科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る(振り返る箇所は、右記参照) ・復習:授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>第2章 III 組織、IV-A 層構造の器官 第9章 情報受容の仕組み 第13章 生殖・発生と老化</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第2章 IV-G お風呂に入る・身だしなみを整える、I コミュニケーションをとる、J 性を営む</p>
11	日常生活行動を営むからだのしくみ:総括 実地体験演習 からだの王様ゲーム	<p>【実地体験演習】</p> <p>日常生活行動から捉えるからだのしくみについての考え方とその知識を再度理解するためにゲーム演習を通して理解を深める</p> <p>【課題】</p> <p>予習:これまで学習して作成した自分ノートの内容の復習 復習:授業で学習した内容を自分なりにノートにまとめる</p>	これまで学習してきた範囲の教科書の内容と自分ノートの内容
12	子どものからだ, 高齢者のからだ	<p>【講義】 子どものからだ, 高齢者のからだ</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習:科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る(振り返る箇所は、右記参照) ・復習:授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>第13章 III受精と胎児の成長、IV成長と老化</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第1章 「いのち」が誕生する・生まれる 第2章 III子どものからだ, V 高齢者のからだ</p>
13	病を患う・病気になる, 「いのち」が終わる, 「ひと」が死ぬ	<p>【講義】止血のしくみや生体防御機構、生物学的な死の意味と重要性、その形態と機能</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習:科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る(振り返る箇所は、右記参照) ・復習:授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	<p>【解剖生理学の図書】</p> <p>第3章 II-E止血と血液凝固、第12章 I非特異的生体防御機構、II特異的生体防御機構</p> <p>【形態機能学の図書】</p> <p>第3章 病を患う・病気になる</p>
14	チームで学ぶケーススタディ	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な患者の例を挙げてチームで話し合い、学びを深める。 ・こどものからだ, 高齢者のからだ, 病を患う・病 	第12~13回までの講義内容を復習してくる。

	<p>気になる、「いのち」が終わる、人が死ぬの形態と機能を考える（題材例：夏、自宅で洗濯物を干している85歳女性、腫瘍の診断を受けた40代女性）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の内容から看護ケアを考えてみる。 ・ <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：科目「解剖生理学」で学習した内容を振り返る（振り返る箇所は、右記参照） ・復習：授業内容を自分の言葉でノートにまとめる 	
--	--	--

評価方法	TBL(10×2=20%)、実地演習(10%)、事後テスト(5×10=50%)、学習態度(20%)
教科書・資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大久保暢子：新体系看護学全書 看護形態機能学、メヂカルフレンド社、2022. 2. 橋本尚詞他：新体系看護学全書 人体の構造と機能① 解剖生理学、メヂカルフレンド社、2020.

※12～14回に設定している「子ども、高齢者、病気、死」については2年・3年次の専門領域で継続授業として組み込む方法もある